

実践記録

学校/学年	小学校 / 6 年	
教科等：単元名	総合的な学習：架空請求と不当請求	
キーワード	架空請求 対処の仕方 ネットの怖さ	
情報モラル指導 モデルカリキュ ラム表における 目標	分類	情報社会の倫理 法の理解と遵守 安全への知恵 情報セキュリティ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	d3：情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる。
	中目標項目番号 中目標項目内容	d3-1：予測される危険の内容がわかり、避ける。 d3-2：不適切な情報であるものを認識し、対応できる。
授業会場	パソコン教室	普通教室 特別教室〔 〕 その他〔 〕
学習の目標		
使用教材	教材名	事例で学ぶ Net モラル
	製作者	広島県教科用図書販売株式会社
	入手先(URL 等)	長野市情報モラルポータルサイト「事例で学ぶ Net モラル」

展開案

	学習活動	指導 評価
導入	1 映像クリップを見る 2 主人公はなぜ困っているのか、何が問題だったかを考える	・重要な場面を2度再生する。 ・主人公の気を持ち考えさせると共に、何が問題だったのかも考えさせる。
展開	3 自分にもお金の「請求はがき」が届いたらどうするか、発表する。 4 ネットでは金銭の請求をされることがあることを知り、対処法を考える。ネットとのつきあい方を考える。	・自分に請求はがきが来たら、どう対処するかを考えさせる。 ネットゲームなどには、意図せずに請求がされることがあることを知り、保護者に相談して対処しようと考えたか
おわり	5 親子でネットについての問題を考える。	・親子でネットでの想定問題に取り組み、よく話し合いながらすすめてもらう。

授業の成果

- ・スマートフォンをはじめ、ネットでゲームを楽しむ人が増えている。子どもたちの中にもネットゲームをする子が増えるだろう。この授業では、安易にネットゲームに取り組みお金が請求されることがあることを知り、どうしたらよいかを真剣に考える姿が見られた。
- ・親子でネット問題を考えることで、困ったときは自分一人で悩むのではなく親に話すことが大事なことを理解できた。また、親にとっても、ネットで問題点を知るきっかけになったようだ。

指導のポイント・留意点

- ・ネットゲームに取り組む子どもの実態を捉え、学習に取り組ませることが大切である。
- ・親子で取り組むことで、親子でネットとのつきあい方を考えさせることが、子どもが問題に巻き込まれることをなくすために大切である。